WASON
HQ
1104
J74+

驛遞局認可

明治二十年三月五日刊行

毎土曜日發兌
一册正價五錢
府內無郵送稅

女學雜誌

第五十四號

東京 女學雜誌社

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

The Women's Magazine.

(JOGAKU ZASSHI.)

No. 55. MARCH 5TH, 1887.

第五拾四號

EDITORIAL:—Qualifications of a Good Nurse.

LEADING ARTICLE:—Mr. Shimada's Address before the "Christian Woman's Temperance Union": No. III; Voluntary Marriage, by Senator S. Nishimura: No. IV.; The Christian Education of Women, by Mrs. Knox: No. II;

MISCELLANIES:—Ladies' behavior: No. II; New Mother: A Poem translated from the English of Miss Procter. (Concluded); Miss Prince's Lecture in the girls high school.

CRITICAL NOTICE:—Mr. K. Suzuki's "Shimpen Meiji Dokufu-Den" (Lives of wicked women during the years of Meiji).

BIOGRAPHIES:—Ouba, the Wet-Nurse of Hidetada; Rebecca Motte; Shiwo, the filial Woman at Kadsusa.

CORRESPONDENCES.

GENERAL NEWS.

ADVERTISEMENTS.

●社説　乳母の良否

●論説　島田三郎君演説（開化に際する婦人の心得）筆記（三）〇男女相擇の説（西村茂樹君）（四）〇基督教主義女子教育論（ノックス夫人）（二）

●叢話　女のたしなみ（二）〇やさしき姫の物語（三）〇プリンス孃高等女學校にての演説

●批評　鈴木金次郎氏輯新編明治毒婦傳の評

●佳傳　徳川秀忠の乳母〇モッテ夫人敵陣を火く事〇孝女しほの傳

●新報　積年の習慣を破るべし第三（佐々城豊壽）〇衣服の改良（龍居あい子）

●寄書　十六件

●廣告

●珊瑚の玉　（第廿三回）

〇平の宗盛公に愛せられしゆやと云ふ女の事くまのとよむべし皇后宮大夫師時卿の記（號二長秋記一）に遊女久万乃と載せられたり熊野權現をとめかしくいゝんとてゆや權現と申す方よりよみ來り謠曲もその誤に隨ひしと見へたり實にも女の名熊野と音にてよぶべきにもあらずかし（南嶺子）

〇グラントアルレン云くゼウヂカムプベルが男女相擇ぶの方法を精解して以て伉儷を定るの方針と爲さんと欲し彼の一見乍ち相愛するが如きを非常の狂愚となせり然れども此の一見相愛の天性は反つてこれ人爲の撰擇法に優る万々の事あるなり

〇カーライル屢バ其細君に送るの書中ニ云く君もし經練せバ其爲すべき事甚だ多からん君が同性の女流をして些細卑屈の事を棄てゝ以て自由を得るの境域に至らしむるは實に樂しむべきの事業ならん

〇家康曰く夫婦の別とは嫁取の夜媒人侍女房饗膳なにくれと程々の禮をつくし互に衣紋つくろいたしなみ深く物はづかしくたしなみあへる心もちを云ふなり此心もちひを後々までもわすれずバ夫婦ながく睦じく愛相よかるべし

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

女學雜誌第五拾四號

明治廿年三月五日

● 社說

○乳母の良否

吾人は前々號に母親の責任と云へる一篇の社說を掲げ當今人の母たるものが我國に對するの義務甚だ重大なる所以を論じたり蓋し子供の性質は大抵その母に似るものなれば苟くも後來の日本人民を今の如き有樣より立離らせて之を剛毅勇敢なる男子淑雅優美なる娘孃となさんにはその母たるもの先づ此樣の覺悟を定めて以て大に自ら省みる所なかるべからず然るに中以上の家々には或は乳母を置きて之に專ら子供の養育を托し中以下の社會には大抵子守女に子を任せて終日之を顧みざるを多しとなす如此き場合には其の眞の母は平常反つて子供に遠ざかり朝夕之に尤も親近するは即ち此の乳母若くは子守女なるが故に此等の人々の性質品行は悉く軟和なる子供の心身を刺して以て其の性質品行を編み出すとなり左れば今ま我國の現況を見てかのナポレヲンが佛國に慨歎したると同樣の感を懷くものは次に亦た當今の乳母及子守女の有樣につきて大に痛心する所あるべきなり

先づ世上に於て乳母と稱するものは必しも乳汁を供するもののみを云ふにあらず凡そ幼兒を其子の如くに取扱ひて之に自分の乳汁を含ませ又は牛乳人造乳等を飮ませて養育し既に乳離れたるの後も尙之を守育てゝ万事を教導するの人をば併せ稱するとなり故に子供の之に慣れ親しむとは反つて生の母にまさり何事にも只だ乳母の爲すが儘を見て其心を開發する趣は實際人の能く承知する所ならん左れば此乳母の心立若し賢良ならんにはよし眞の母の宜しからざる性質を受嗣たる子供と雖も亦之が爲に化せられて善良の人となるべし之に反し性質善からざる野卑の乳母に育てらるゝものは例令ひ何如程の性に生れて高尙の心根を傳へ得たりとも必ずや之が爲に變じて乳母同樣の人種となり下るべし故に俚曲にも重の井の子は乳母の爲に三吉と落ぶれ鶴千代は政岡の養育にあつぱれの若君となれりとせり是れ眞に味あるの趣向と云ふべき也

然るに當今中以上の家々に於て所云る乳母なるものを雇入るる有樣を見るに必しも乳母の性質を吟味するにあらず況んや其人の血統は如何にして親戚に惡病の輩などあらざるや等の問題に關しては毫も心付くる所あらず大抵慶安口入所の類に候補者を募り置きて之を撰擧するに可否の議論なすべき心得

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

も知らず先づ乳がよく出る、躰がよく肥つてゐる、温和しそうで辛棒しそうなり、など云ふ眞に些細此上なき事件にのみ注意して乍ち之を雇入れ最愛の玉の子を鬼子母神の如き婦人に委して以て他日一家の不幸を來す基を醸す輕卒無上のことゝ云ふべし此故に雇はるゝ所の乳母も亦た其子を愛するにあらず只爲に得る所の金を愛するなり夜は乳房を曝け出して己れ先づ仰臥し抱きしむべき雙の手は左右一直線に横りて鼾の聲幼子の夢を破るに足る夢覺めて驚き泣くと烈しければ乍ち乳房を壓し含ませて聲を立てしめず亂暴至極の處置あり晝はよく之を連出して運動を試ましむるが如しと雖も既に遠く家を離るれば復顧みず同類間に猥褻の談熟して子供の歸るを云ふを聽かず負はれんことを望めば叱り歩まんと云へば叱り泣けば之を放置するとおどし戯るれば則ち暴りに之を制止す子供の愉快殆んど絶して其心いよ／＼曲り剛情虚僞の念追々に起り來る尤も憐むべきの時と云ふべし、其他子供が談話を聽くを好むとき之に語る所の事は以て其智を開發するに足らず寧しろ幽靈狼の虚談に之を臆病にし狡猾營利の野話に之を卑劣にしたゝます／＼其心を卑からしむ然らざるも其の知らず識らざるの間に行ふ所の行狀は亦不知不識の間に一々子供の性質を感化し邪慾、氣隨、狡猾、懶惰、等の惡風次第に子供の躰内に吹入りて遂に全く之を乳母全樣の人となすべし眞に恐るべきの教導と云ふべき也昔しカリギウラの乳母は其乳房に血をつけて飲ますること度々なりしが此事遂にカリギウラの心を慘酷にし他日人を殺し其血を見るを以て此上なき愉快となし天下人類の頭をし一つにてあらんには之を斷ずると甚だ容易ならんものをと述懐するに至れりと云ふ思ふに乳母朝夕の居動が子供の心を感化するの強きは蓋し或は之よりも尚ほ強き所あるべき歟故にロミウラス及びレマスは狼に養はれヘルキウールの子テレフハスは牝鹿に育まれチプチウンの子ペリアスは牝馬の乳を吸ひエーヂスサスは山羊によりて育ちたりとの古傳は何れも皆な之を養育したる乳母の性質を形容したるものと云ふの説あり蓋し是れ乳母の人物何如によりて或は慓悍となり或は柔弱となり或は温和の人となれるを云ふなり

之を以て今の母親たらんものは其責任の既に重くして爲すべきの義務甚だ大なることを感ずると共に若し止むを得ざるの事情に際して乳母を雇入るゝことあらば須らくよく其撰擇に注意すべし凡そ其子を愛するもの眞の母に越たるはあらず然るに此母にして尚ほ子供の養育を忽にするもの甚はだ多きこと

殆んど絶して其心いよ／＼曲り剛情詭僞の念追々に起り來る尤も憐むべきの時と云ふべし、其他子供が談話を聽くを好むとき之に語る所の事は以て其智を開發するに足らず寧ろ幽靈狐狸の虛談に之を臆病にし狡猾營利の野話に之を卑劣にしたゞます／＼其心を卑からしむ然らざるも其の知らず識らざ

り或は柔弱となり或は温和の人となれるを云ふなり

之を以て今の母親たらんものは其責任の既に重くして爲すべきの義務甚だ大なるとを感ずると共に若し止むを得ざるの事情に際して乳母を雇入るゝとあらば須らくよく其撰擇に注意すべし凡そ其子を愛するもの其の母に適たるはあらず然るに

を思ふときは僅かなる給料の報酬を以て人の子を保護する所の乳母に於て多く不信切の行なるを見るは固より奇とするに足らず故に之を撰擇して最愛の子を托するの覺悟も亦決して尋常一樣の心得にて十分なるべからず母親にして其の當今の責任甚だ重大なるとを悟るものは次に亦た此一事に深く注意する所なかるべからざるなり

●論説

○島田三郎君演説（開化に際する婦人の心得）筆記（三）

元來此感染の事を一般に論ずれば別に惡いことはない、惡いことのない以上は此道を取るも差支ない、否今日誠に必要であると思ふ。左すれば今世間の風俗は國の學校より起ると申た通り、西洋流儀の慣習は學校から起すとすれば、衣服飲食家屋の上にも變化を起すなる可しと思ふ。而して此變化が成丈弊害のない樣にするが最も必要であります。取り分け婦人方への希望で有りますが、今日の有樣は男の變化は餘程更て居る有樣に至たのです、元來日本へ歐羅巴流儀の入り來ッたは重に役人の手を經て起ッたので、私共は幼稚で知らんが嘉永安政時代の書を見るに、一般人民が外國人と交るは餘程厭やで有たのです。然れども外國人が度々參ッて交際しやうとの掛合を受けて止むを得ず交際すると心が決したのですけれども、外國人と交際するは全國中でも僅の人のみで一般人は之をいとふたのだが詮方なしに交際を始めたのである。故に官吏の手を經て外國人と交際したので政府の人が染ッたから一般の人をも染ると云ふ樣な有樣であッた。元來日本に起るとは上に有て下にない、上の人が箇樣に設けやうとすれば其通りになる、日本の文明は何所から成立たかと尋ぬれば必ず上から成立たのである。學校は即ち政府の力に由て成り、西洋風は利益あり便利ありとて一より十迄即ち政府の手より起て變化したるものであります。固より男子が上に立て政事を執るから男子が變化を受け、次に政府の役人の家屬が變化を受たに相違ない。左すれば人數の多い方が支配を受けずして少數の人が此變化を受けたのであります。歐羅巴諸國は上の人が富で下の人が貧いと云ふことは無い、却て有力者は下に有るのですけれども東洋亞細亞抔は多くは富は上に有て下は貧しき有樣だから、威權ある人即ち富める人は歐羅巴流儀の變化を受け次第に下に及ぼすので其變化は餘程違たものであります。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

故に凡そ風俗や教育は有力にして上に立つ者が變化を受け、夫が教育の上に力を用ゐ一般に及すに相違ないが、歐羅巴の文明思想を我日本に染込ましたるも亦上の手にある事は確言する事が出來ます。

文明の來歴を論ずるは六ケ敷いが、やさしく論ずると歐羅巴今日の文明は決して上から起た者で無い、日本は上から引入れられた文明で歐羅巴とわ違て居る。歐羅巴流儀の文明は下から起て其富は著しひが日本は之に反して上から下へ與へた文明だから、下は文明の變化を受ることと少く、又外から與へた文明である故に之は餘り強からぬ文明である、今より此形を引直すは日本後來の爲に必要と思はれます。

文明を日本に起すは下から平等にしあければならぬ、又是を起しても引入方が肝要です、彼釋迦の教は元と平等主義で起たものです、其譯は印度には昔バラモン宗と云が有て、人間を四等に分け日本の如く士農工商と立て、一番下等の者は書物を讀ことは相成らぬ書物を讀めば大罪と云樣に最も不平等の者で餘程怪しからん者故に、釋迦が平等主義に背くと言て定佛の教を布き不平等を打敗たが、之を我々は良いとは云はんが兎も角も平等と不平等との何れが可と云ふに、無論平等が良と云て立た教に相違ない。我國の僧侶が法衣即ち袈裟衣は天竺にて俗人の捨てた世人の用をなさぬ着物を集めて造りしありとの話を聞ましたが、貧窮なるものでも同じ利益を受らるゝ貧富同樣の働きを爲したる者なれど、今は之に反對と相なりました、即ち佛法は支那へ這入り支那から日本へ渡て來から箇樣なる間違を引起したのである、支那の歴史を讀と漢の明帝が印度へ使を遣て引入たので、佛教の變化は後漢の朝廷の人々が爲たのである、天子樣が佛教の變化を受け朝廷の人々が變化を受け堂宮を造り建て衣服も立派な者になり支那全國に廣まり、其後今の朝鮮を經て日本へ這入たのです。此朝鮮の王樣より欽明天皇へ佛像を備へたるが即ち日本に佛法の廣まりし初めです。左れども前申す通り上の人へ染たので天竺での不用の者を以て袈裟衣を造りしも支那朝鮮を經て日本に這入て今は金襴或は紫袈裟衣を着る樣になりました。箇樣にして素と平等より成立ちし者も今は甚しき不平等の出來榮を現はす樣になりましたのであります。

支那六朝の歴史を讀だ方は御承知なるが、支那の天子が達摩大師に何う云ことが功徳かと問しに、今建ある佛像を其儘に建置くは無功徳と答へた。何ぜなれば此時佛教は奢を極め世

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

の富を傾け金銀を費して造りしものだから縦令何程立派に出來ても此金は何から出すか又遂には一般の有力なる人の手に落ちる故に、達摩大師は天子に答るに無功徳と言たのです。一方に善根と思ても一方に榮耀の品物が出來る故に本を平等に組立てゝも其引入方が不平等なれば必ず其出來榮は不平等に流るゝ事は世理上の證據が明かで有ります。(未完)

○男女相擇ぶの説 (四)　　西村茂樹

何故に本邦にて制抑を受くるの婚姻ハ夫婦の親み厚くして自由の婚姻ハ夫婦の親み薄きかと云ふに是にハ明白なる道理あり先づ父母が其子女の爲めに婿婦を擇ぶに當り決して我子女の爲めに惡しき婿婦を擇ばんと思ふ者はなかるべく必す最良なる者を精擇せんと思ふハ人の父母たる者の常情なり此情よりして選擇するとなれバ其選擇の大本既に善なり偖其選擇の方法に至り父母ハ其子女に比すれば世事に經驗多く殊に夫婦の交に付きての經驗ハ最も着實なれば其婿婦を擇ぶに當り此の如き性質の者ハ家を保つに宜し此の如き性質の者ハ家事を治むるに宜しからず此の如き家風の者ハ親類と爲りて利益ありとか損害ありとか云ふとを知るは若年なる子女に比すれば最も明白確實なり然れ共父母自ら之を決斷せず必す之を其子女に謀り子女の同意を經て始めて之を決斷する時ハ父母の選擇法に於てハ缺失なき者と云ふべし子女たる者ハ大抵之を父母の選擇に同意し己れ之を可否する者少なし此の如く其選擇を父母に任かせ己れ與かり知らさる者の如くにして其夫婦となりたる後ハ交情の親密なる者多しと云ふハ如何と云ふに凡そ男女の交情ハ不可思議なる者にして最初必す此男女と定めずとも父母之を擇び定めて夫婦と爲したる上ハ甚しき不釣合の者に非ざるよりは互に相愛するの情油然として生し自身に相擇びたる者と決して相異なるとなく且つ選擇の精なるとハ自ら相擇ぶに比すれバ勝ると數等なり若し其才學容貌貧富に甚しき不釣合ありて男女の一方にて不承知なる時は其情を父母に告げて其擇に從はざるも亦妨あるとなし又往時封建の世にハ諸侯の子女にハ男女其面を識らずして婚を議するのとありしかども今日ハ大名の家風も全く變ぜしを以て此の如きの事あるとなし降りて官吏士族の家に至りてハ男女既に互に其面を識るのみならず其性質學藝をも知るの便あるとなれバ其外形ハ制抑の婚姻の如くなれども其實ハ自由の婚姻に節度を加たる者なり或は稀には其子の欲せざるに其父母强て婚嫁せしむる者なきに非ずと雖も此の如きハ大抵ハ禮儀なき下等の

種族にあるとにして多くは其子女を以て奇貨として父母自ら利せんとするの慾心より生ずる者なれバ（此種族にハ己が女子又ハ養女を以て或ハ人の妾又ハ娼妓とせんとする者多し）禮儀ある家にハ決して見ざる所なり又父母既に沒するか父母の家を離れて遠く居る者の如きハ固より男女自ら擇ぶの外他法なきことなれば是等ハ勢ひ西國の法と同じからざるを得ざるなり（未完）

○ノックス夫人演説（女子教育説）筆記　（二）

教育はおもに書物の輔けをかりるもので御ざいますがよきものをさへ選びますれば古今の聖賢武勇の士と交るやうなもので御座います。ソーシアまた箇樣に交る友は決して私共をあきる事もまた暫時なをざりに致したとて怒る事も無いと云ふ事は一つの便利でございます。ソーシア此の友は私共が徒然で堪へられぬと云ふ時に暇のあるかぎりなぐさめをし總てよき事高尚な事をます〳〵追ひ求めるやうに勵まして呉ます。教育は亦た世の人の利益を爲すと云ふ人世この上もなき幸福の媒介とも輔けともなります、たとへば修業して人を教訓する樣になつた者は己れの得た智識を人にふるまうばかりでなく己れの智識もそれが爲めに堅固になります。ドもうして誰れも彼れも教員になる事も出來ずソーユー事に適當して居る者でも御坐りませんが、然し教育ある者が世間によい働らきをなす道がたくさん御ざいます。

偖て眞正の教育と申す者はチョット手輕にできあがるものではございません。これをまことに成就しようと云ふには勉强の上にも倦ず撓まぬ勉强を加へ注意の上にも丁寧反覆の注意を添へ其上始めの決心を練り養つて行かねばなりません。多年の月日をさる學校に過したからと云ふて決してそれで教育の整た婦人とは申されません。教員だからと申して智識を人の心に注込む事は出來ぬもので御座いますから生徒たる者が完全な教育を望まば各々力を振ひ從事せねばなりません。又學校の品位性質などハ時と共に漸く進み改まるもので御座います。唯今亞米利加に名有る女學校の始めを尋ねますれば眞に些細な事で御ざいますが、今日では女學の盛なる事は著しく財産あるものは男女に限らず多くの金子を抛けうつて婦女子の高等學校を設立いたしまして玆に二十歳以上二十五歳迄の婦人が學問の快樂を味ひます。然しながら修むる學科や教授等などの事は生徒が自ら辨別する事が出來る者では御座りません。箇樣な事の辨別が出來る

やうになれば最早敎育の大要は得た者で御座います。よき敎育を得やうとするになくてならぬものは年數や勉强ばかりでは御ざいません。格別初歩の年には勉めて忍耐を守らなければ甚だ失望して初めの決心も水の泡になりましやう。然るに總てよき目的を立てゝ夫れに向てながく撓みなく進むことが敎育の一つの大主意でございます。モー一つは勉めて心を制し意を止める事でございます。若き者や敎育なき者は此の事物に勉めて意を止める事の要用も兎角わきまへぬ者で御ざいますから必ず年と地位に長けたものゝ見込みをさしづにまかせねばなりません。いづれそのうちに學問成就のよろこばしき結果を得て研究の仕方、練習の方法、又はじめ終りの困難に堪へ忍びをすることを敎へ下ださつた先生の恩を思ひしるで御ざいましやう。(未完)

I have those hope of her good, that her education promises: her disposition she inherits, which makes fair gifts fairer; for where an unclean mind carries virtuous qualities, there commendations go with pity, they are Virtues and Traitors too, in her, they are better for their simpleness: she derives her Honesty, and achieves her Goodness.

Shakespeare.

● 叢話

○女のたしなみ　(二)

第一の續　然らば何如して斯る弊風を絶つべきや何人と雖も素と之を快よき行狀とは思ふまじきが但だ女の人の性として甚だ下に近ければ扨ては止を得ず時ならぬ場合にも憚を借用することなりと云ふ尤も愍むべきの辨解にして一應は聞ゆるところあれども左らばとて到底之を改るの工夫なしと云ふにはあらざるべし蓋し我國人は西洋の人と違ひて多く穀物野菜を食べ躰內に水分を容るゝこと分外に多きが上に湯茶を飲むことも亦甚だ多量なれば西洋人の如く行儀よく便通の習慣を定る能はざるは勿論なれども其心得方によりては亦多少行儀よき習慣を得ること難きにあらじ即ち湯茶の量食物の高等を定めて且兼て便通の時刻をも定るやうにするは勿論宴會に參る時又は他所へ行んとする折は預じめ其用意して特に湯茶の量を減ずることなり凡そ習慣は甚だ恐るべき程の勢力あるものなれば左に云ふ如く平常より心得て身を制するときは自然に其仕來に相應して行狀一變するに至り彼の尤も厭ふべき悪風を滅するに至らんこと敢て難きにあらじ西洋にては宿屋の使女なりとも凡そ女と云ふものには便所の在所をも問はざるを禮とせり女

性に對して禮を愼むと斯程に嚴肅之と云ふの傍ら我國にては演說會塲に臨で憚に往來し他家を訪問して不取敢之を借用する抔申す野蠻の女風倘ほ一汎ならんには女性の品格を高すると到底望むべからず男子の優待を受るとも亦甚だ緣遠き願となかるむ今の女流改進家は大に注意する所なかるべからざる也

○優しき姫の物語　(三)

(四七)「ちゝのおもひは、メーや知る、のこる言の葉、アサ知らめ、
おさなきこゝの、チルがまで、わこらの手もて、かの人に、
むくうたよりを、さとるらん」。

(四八)「マルガレットは、わがつまと、ちゝは愛して、もてなせど、
わこらが爲べき、むくいをば、かハりて爲ん、よしもなし、
わこら爲よかし、れゝのため」。

(四九)「はゝは彼世に、居ましつゝ、こよひわこらを、めぐみなん、
わこ等もろとも、かのひとを、なぐさめまつれ、最きよき、
ひとのこゝろも、痛たむとて」。

(五〇)「あくれば殿は、出陣す、なみだの日とは、おもひきや、
乘出る馬上に、振り見れば、はゝの手にくゝ、とりすがる、
たのしき見榮に、いさましゝ」。

(五一)チルがはうでに、はひよりて、アサは御そバを、守りつゝ、
メーは日にくゝ、したしめば、むかしのけしき、消てゆく、
たのしきいへぞ、うれしけり。(完尾)

○批評　(第十八回)

(20)新編明治毒婦傳　中本一册(四百七十四頁)定價一圓五十錢　發兌所東京日本橋通一丁目一番地金泉堂

此書は鈴木金次郎氏が夜嵐お衣、權妻お辰、茨木お瀧、高橋お傳、雷神お新、鳥追お松、等の傳記を編輯ありたるものにて何れも既に諸新聞紙上に於て評判となりたる近世の毒婦なり吾人今之を再讀して轉た痛歎に堪へざるものは女性の優質變じて非常の猛惡となるべき所以を悟るが故なり蓋しお衣お辰お新等は初め尋常の娘女なりお瀧お傳お松と雖も未だ初より亂虐の行ありしにはあらず然れども先づ色に溺れて次に淫に陷り終には人を殺し人を害するを以て屑とせざるに至る其變化する所を見れバ悚然として膚に粟を生するなり此傳固より假構の文少かるまじ又一讀して正當の女敎となすものにあらずと雖も非常の惡虐も最初は只僅かなる不身持より生じ來る所以を觀て反省せば亦以て女戒の一端となすべき也

They never lov'd as Thou and I,
Who minister'd the moral,
That aught which deepens love can lie,
In true love's lightest quarrel.

Lord Lytton.

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

○プリンス孃の演説

左は前號の新報欄内に掲げたる高等女學校にて毎水曜日に催さるゝ演説筆記の一つにて某女が教師プリンス孃の談話の大畧を書留め寄送ありたるものなり

今爰に愛するあなた方よ私が此國に參りましたわけを如何かと申せば即ち家族の事に付てあなたがたに教へんが爲に大洋を經て參つたので御座います。

今日は少し家事に付てあなたがたに御話し申したふ御座いますが皆な盡くす事はできません故に度々あなたがたにおめにかゝる事も有ば少しづゝ御話し申ます。

先づ今ま學校に入學して居らるゝ女子と最早退校して家に居らるゝ方との區別が御座います。

學校に居らるゝ生徒等は規則に基づきて學び教師の教に從ひて學ぶ者なれども學校を出て内に居らるゝ女子は前に在校中教へられし事を覺へ置きてよく〳〵之を守り行ねばなりません。

そして今ま日本の國は變化の時であつて何事も西洋の風俗をまねせんと見て居る大切な時で御座います故にあなたがたは此大切なる時によく誤解せぬようにして我日本に利益ある事を致す事ハ最も要用なる者で御座います今ま夫れに付て經驗したる事に付き御話し申ましよう。即ち日本にても外國にても親を尊べと云ふ事は異なる事は御座りません夫らのとに付ては如何なる教師も教へますし又天然自然の事で有ます故に此には論じません。

彼の「フランス」人ハ禮義を重じ又家屋身體等を淸らかにすると云ふ事がありますが東洋にては日本が禮義があつく且美麗なるよしを申します夫れらの事をきくに付けて御國の名譽と云ふへし又此學校に於て此度質素を旨として自國の品にて洋服を被らるゝ事ハ最も悅ぶ事で御座います洋服を被らるゝ時は責任を重じ且つ時も重じなければなりません。

又あなた方ハ學校の生徒でありまして重き責任を持て居らるゝ者でありますから能くこの責任を盡くさなければなりません今此事に付て感ずべき話しがあります其れハ百年前「アメリカ」の國が英國の屬國と爲りて居りました時に西の國郡「ニユーイングランド」のわずかなる女子が英國の屬國と爲つた事をいとひまして獨立しようと皆評議し又思ひまして夫より女子等は各々にて糸をとり木綿又毛織の粗末なる者を製しまして他國の者を用ゐませんでしたが此時より各々色々の機械

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

を發明して製造所を立て、他國へ貿易する樣に成まして而して遂に此國は獨立國となりました今あなた方他國の者を用ゐずして洋服を作らるゝは我が最も望む所で御座います。又學校に付ての規則を少し御話し申ませう女子が學校に在る間學問する時は當て時をかんがゐてむだ事についやして夜會などに出ぬ方がよろしい又一人にて他出するとなく又男子と交りて居るとはよろしくなき事で御座います。

若し他出する事有れば離れゐても同道するとは最も要用でありまそ決して疑ふ事ではありませんが幼き時は事を過まりても氣を付ない事がありますから其時に人から助言して善事に導びく爲の事故に能く誤解しないようにしなければなりません。

又忍堪と云ふ事をよくつとめなければなりません前文の事は皆高等の人の行なふべきとで御座います故にあなた方はこれらの事をよく〳〵つとめられん事を望む。

Be strong to hope, O heart!
Though day is bright,
The stars can only shine
In the dark night.
Be strong, O Heart of mine,
Look towards the light.

Be strong to bear, O Heart!
Nothing is vain:
Strive not, for life is care,
And god sends pain;
Heaven is above, and there
Rest will remain!

Miss Procter.

● 佳傳

○徳川秀忠の乳母

徳川二代の將軍秀忠公の乳母に大姥どのと申したるあり性質さかしうして謙遜なりしが年老ては地行數多給はり上の御もてなし最と厚かりき然るに一日故ありて家中の者どもを集め馳走さるゝに飯肴を大盃に盛り自ら給仕して奴僕までをも其儘にあしらひたり折から執政本多佐渡守來りて此躰を見驚きて曰ふ大婆どの數多の侍女あるに何とて自身にかゝるわざせらるゝや人に任せて置き玉ふべしと大婆どの答へて曰く佐渡守殿近ごろ驕奢なるよし人の噂しけるが只今初めて其信なるを知り候足下彌八郎と呼びたる時を忘れ玉ひしや妾が如き賤きものなれども公に乳を上しのみにて斯く結搆に仰せ付られ今は何不足なくあれど以前三河に在りし時は五人六人の客へ酒飯をすゝむるとも出來ざりしに今は何人にても斯の如く饗應の出來ると實に有難きとなり故に昔を忘れぬ爲め斯く自ら給仕しはべるなり足下もまた以前彌八郎たる時を常に忘れず驕奢を愼み玉へ左なくば大事の政務に與ると覺束なしといひしとぞ其後年經て病に罹り危篤なり秀忠褥に臨み病を訪ひ願ふ所何事なり共申せと仰さるゝに大婆どの更に願うとなしと

いふ秀忠伺再三所願を問れる此れ大婆どのに一子あり嘗て法を犯し流罪に處せられたるなれば其一言の願あらバ特許を命じて之に面會せしめんとの意あられしとあり大婆どのは流涕して曰く公の此老婆を愛せらるゝとの厚き何を何てか之に譬へん然しながら老婆をいたはり給ふの餘り万一卑兒の罪を赦免せらるゝ如きとありてハ御身自ら國法を破らるゝものにて大政の妨害となり由々敷大事なればハ必らず此儀なからんとを願うなりとて其他に言葉なかりしとぞ

○モッテ夫人敵陣を火く事

米國獨立戰爭の比ゼーコップモッテと云へる人あり戰爭に出ると其儘不幸にして打死したるが其妻なるレベッカモッテ夫人と云へるは夫の志を嗣ぎて戰場に莫大なる勳功を立てけり其ハ此頃英軍の將マックフヱルソンと云へるもの固とモッテ氏の住居したる巨宅を奪ひ取り剩さへ其邊の寨壁を固めて援兵の至るを待ち高く構へて最と鷹揚の勢を示せば悪き彼の取計哉救の兵の來ざるうちに早う之を追散らさんとて米軍の將マリヲン、リー、の二氏連りに謀畧を運らすといへど其策之を火くの外ハあらず然るに兵卒中敢て其事に當るものなく互に相讓りて果しなき時モッテ夫人は欣然として自ら之に任ぜんとを乞ひ印度より輸入したる弓矢を用意して早や燒打の仕度此迄なりと勇みたり然れバ米軍は歩を進めて陣所を距る矢の達する程の地に至り號令の下るや否や打入らんと待かけたり然れど英將は援兵の來らんを待ちて驚きたる景色もなく靜り反りたるに軍旗一飜すると其が儘兵と射出だす矢の頭には樹脂火に燒けたてゝ陣所の家根へと射立ちたり二度目に射たる矢も三度目に放ちたるも皆な〳〵屋上に燃え立ちて焰炎々たれバ英將は惶てゝ兵卒どもに命じ驅け登らせて消しとめんとすれば轟然として打出づる大砲の音と共に木の葉の散る如く落ち去りつゝ火はます〳〵熾んにして陣所は悉々く燒け落ちたり此時夫人は己が住ひたる舊家の灰燼に歸するを忘れて定めて軍功の成れるを喜び玉ひけん想ひ遣るだに最とあはれなり斯れバ英將も最早爲ん方なく白旗を打振りて降參したるが事の勳功は一に夫人の力に因れりとて全軍悉く賞贊したり然れど其翌日今は一隊となれる敵味方の大將ども相集りて宴會を開くに夫人は昨日の勇しきに引かへて姿いと優しく立居閑雅にして持てなし甚だ至れり談話の中に少かだも勇々しき樣なくて只だ降參したる人々の不運をあはれみ只管ら之を慰めて面白う語らひける

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

後ち戰爭終りたる頃は夫が艱苦の爲に遺したる數多の借財を悉く擔當し友人知己の制止するをも聽かで自ら之を拂ひつくさんと盟ひ拮据黽勉して遂に莫大の義務を盡し了られたるのみか巨多の產を貯へて其子の敎育費等に充てたりとぞ夫人の如き勇にして貞よく女德を完うせるものと云ふべきなり

○孝女しほの傳

昔し寶歷年代の頃上總國に孝女塩と云へるものあり其嘉行今に至りて彼地に言ひ傳へ女の敎となすとあるが此度該地の榎本井上の二氏相謀りて江湖に美捐金を乞ひ其傳を更に久しく遺さんとの計畫なるよし吾社より同女の事を問合せたるに左の如き答書を寄せられたれバ其儘に掲載して讀者の覽に供す蓋し當今女學の隆盛なる時に際し斯る孝女の名を世に表するは眞に喜バしき美擧と云ふべし

拜啓陳ハ過日懇篤なる御書翰頂戴御厚意奉鳴謝候豫て孝子塩女の傳幷に房總志料南總珍の同女に關する事實記載被送度旨に候得共右房總志料孝女の傳ハ手元に有之候に付別紙謄寫し差上候得共南總珍官刻孝子傳ハ手元に無之候儘何れ所持人取調追て御逓送可申候且建碑募金廣告之義御厚意に隨ひ御依賴相願度依て廣告文差上候に付可然御取扱被下度願上候云々

孝女志保の傳

今茲に文化四年丁卯十一月神尾內記樣御知行所上總國夷隅郡上布施村折越と云へる處に百姓傳八と云家に孝女ありて御領主より褒賞を賜る其行狀を聞に右志保父には早く別れ其后夫を迎しも二十九歲の時に夫に離れ母親を養ひ艱難の內にも重ねて夫を迎へず親しき者のいへるは再び夫を迎へ倶に母親を養はゞ自身も大に安かるべしかゝる片田舍の事なれば女の手業にてはいかにすとも母を養ふ事得がたからんなどすゝむる者も多かりつれどまたの夫をむかへもし母親の心に叶はさる事もやあらん二つには兩夫にまみゆるは操にあらずとてひとり身にて老たる母をば養ひぬ母は寅年九十二歲にてみまかりぬ此時志保は六十二歲なりき貧しき內にも心を盡しあつく葬り納めたり其母のありし時の事を聞くに老人は自ら心のかたくなになるものなれば志保の母も折にふれては筋なく心狂はしき事も云ひ出でたらんに少しも背くことなく起臥に抱きかゝへ衣類食事のほどを能くはかり二便の取納め清らかに介抱至らざるなく幼きものゝ母親に氣儘を云ふ如くなるをも逆からはず靜かに云ひなぐさめてぞありける齒のなきのちも

（右ゆりか物語の圖餘白なきに付本文を次號に讓る）

母親は志保に向ひむかしの如く燒米を食はせよと云ふ志保はいかにもして和かにし老人の食べ得るようといろ〳〵に工風して日々勸めける母は素麵を好んで食しけるがその近きあたりにあきなふものゝ無かりし故一里餘へだゝりし町に行き買ひもとめけりされど錢のともしければ日々十二錢づゝ調へけるとなん母は志保の留守中さむしと云ひて傍らを離さずされども素麵を調へざれば亦母の心を喜ばす能はずやむを得ず母の眠りし間を伺ひ彼の一里の處へ走り行き調へかへる道すがらも母の目覺めて我れを尋ねてやおはすらんと思ひ矢竹に心はいそげど己が身も六十の坂をこへしなれば雨風など烈しき折はいたく勞れを覺ふるなるべしかく貧しきうちに母を養へば自からは食少なくひまある時は田かへしまたは杣木こりの業に身をはたらかせ僅かなる錢を得て家にかへり冱寒の夜半にも我肌にて母の手足を暖め細布にせまき身は霜夜の夢を結ばん樣もなく春暖かなれども花鳥を見聞くいとまなく秋の月につられて小夜砧のひゞきもたのしとも思はれず六十年の光陰を雪氷艱難の内に送り唯だ母の機嫌よきをのみたのしみとしてぞありけるがその貞烈と孝心とは如何なる忠臣義士にもをさ〳〵劣るまじくぞ覺へける老母常に魚を好み食事の都度必ず備ふる事なるに日毎に岩和田村となん云へる處に赴きて調へける志かるに去々年八月廿七日大暴風ありていづくにも魚のなかりける母は其辨へもなければ魚なくては食事をせまじと恨みけり如何にすべきと心をくるしめけるに隣家の人不圖來てこはあやし何處より出でけん大なる魚のあるはと云ふに驚き出で見れば大やかなる鰹の遣ひめぐるにてぞありけり夢かとばかり打悦び調味してすゝめし事村人の知る處なり今年御領主御代改り御政事の初め御聽に達し早速御糺の上御感心あつて重くこれを賞せらる其寫左の如し

孝女志保ハ舊領神尾内記元亨より褒賞授與せらる其臣旨趣の顛末を記す其文に曰く上總國夷隅郡上布施村打越百姓傳八娘其方儀二十九年の時より夫に離れ久しく艱難の中に操を守り年老たる母を信切ニ養ひ寒暑風雨の厭ひなく遠きに行て母の嗜める食物を求め朝夕となく母の心を慰め其意に悖らず奉養至らざる處なし亦前夫に對し貞節に相守り候段奇特の至りに思召候御首筆幷びに米三俵鳥目被下置者也

文化四年丁卯十一月十六日　高橋三郎兵衛勝久花押

板橋正太夫義烈花押

また房總志料に曰く近き頃打越（本名上布施）村に孝婦あり姑に事へ

て孝行に少しも姑の意に背かず朝夕母には大事に事へしと或日適姑疾にありて食進み兼候時などハ一里餘の處をも厭はず走りて素麪などを求め食せしなど實に孝養怠らざりし事をいつとなく領主へ聞へ御褒美を賜りしと予義觀師に從ひ彌陀順禮の序に此家に立寄此時婦ハ齡五十餘と見へけるに其褒賞の扇子壹本和歌あり並折紙に孝子不匱の字神尾內記君の御自筆拜見す予賞歎しければ孝婦曰我親を大事にしたとて何も下さるには不及と其質素如斯

以上

千葉縣夷隅郡布施村二百廿八番地　榎本與六郎

女學雜誌社御中

同　百七十二番地　井上佐幾夫

寄書

○積年の習慣を破るべし（第三編）

海外人に對する日本婦人の心得

東京婦人矯風會々末　佐々城豊壽

義にハ第一第二編に於て心內の積年の習慣を打破らねバ何事も僻見を免れざる事を演たり故に今此編に於ては外に顯るゝ習慣を述て吾愛する姉妹諸君の共々に盡力せられんことを願ふ是今日の急務中の急務と思考すればなり

夫邦國の文明と云ひ野蠻と云ふは其國惣躰の上より觀察を下したる名稱にして假令一二名の賢人君子あるも他の數万人は野卑陋劣ならば其國は矢張り野蠻の部に數へらるへし又假令些少の頑愚者あるも多衆人民の風俗高尚ならば其國は文明と稱せらるべし即ち多衆人民の風俗は一國の評判となれバなりされば一個〳〵の風俗も集りて一國の風俗を成す物なれば又一個〳〵の野卑なるも高尚なるも其國に重大の評判を受る事と知るべし近く譬へて申さば西京の人と云へば優美に思ひ小笠原島の人と云ば野卑の如く思ふが如し能之を判て見るならば西京の人にも武骨ものもあるべく小笠原島にも風雅の人もあるべし然りながら多衆人民より觀察を下さるゝ故武骨と云るゝも優美と云るゝも其評判致かた無ものと知るべし

さて又世の中と云は妙なるもので誰も皆自分の國ほど尊き國ハ無と思ひ又自分の風俗ほど相當の風俗は無きものと思ふは世界の通情なれども之を餘所の國人より見れば隨分可笑事も數多あることなるべし併し諺にも自惚の氣の無き人ハなきものなれば奇妙なる風俗の中に包み籠られて安心して居る人も亦數多ある事勿論なりと云ふべし

余が家の書生某三四年間ピーナンと云へる地に滯在して歸り

來りし時の話に此土地及ジヤワ又シヤタラなどの國にてハ此國の人民一般に「白牛を神と尊みて之に事へ人々跪きて禮拜し又父母先祖などの忌日には最も丁寧に食物を造て白牛に献げ供養の心を表すとぞ就中尤も忌しく穢らはしく見ゆるは此白牛の通行の時人々路傍に跪づきて禮拜し且つ白牛が途上に洩せる軟かなる牛糞のある所に人々爭ふて寄り集り皆々指の先にて捏まはし夫を銘々の額の眞中に圓く塗るとあり」定めて是は災難除とか息災延命とか云へる呪詛なるべし併し日本人などの餘所の見る眼には随分馬鹿らしく考へられしとぞ又土人中に銀製の丸き環を鼻の中に垂れ下げて飾りとなして意氣揚々として居るものもあり何れも本人に取りては大層の装束を爲したる心持なるべし實に習慣と云ふものは不思議なるものなり

吾愛する姉妹諸君よ此話を聞たらバ此國は文明と申されますか否野蠻と申より外は此風俗を評判いたされますまい吾國は皆さん御存の通り鐵道もあり電信もある故に西洋諸國では大層ほめましよう併し吾國内を能見ますれば彼の白牛の物こそ額に塗ねども狐を祭りて稲荷明神と呼び蛇を祭りて辨天と爲し猿を書きて盜賊を防ぐ神符と爲し縁切榎の木も鼠小僧も神として祈り又老木には注連を張て尊びあがめ或は之に祈禱して吉福を願ふなどの類の如きは吾々日本人は積年の習慣に包み籠られてあれば左程にも思はねども外國人より之を見るならば如何に思ひましよふ此風俗をとつて文明人士の行ふものと譽る事は莫るべし

又今日吾國内の婦人社會中非常の陋習に安んじ野蠻の風俗を以て安心し殆んど改め難きものあり否々改むる方を却て耻かしく取違へて思ふ事が有ます（これは皆樣何の事でしよふ何の事柄でしよふ即ち是は皆樣御存じ御同意の通り眉毛を剃落す事と齒を黑く染る事で有ます）眉毛を剃落す事と齒を染る事とは自然の容貌をも損じ又健康をも害あり其他風俗にも關係して國内の野蠻風を現はすべき一大惡風俗で有ます外國人は此風俗に付てどれ程日本を見下げるかどれ程侮るか知れません彼ピーナン人等の銀の環を鼻先に垂れ下る者と同一に愚弄さるゝかも知れません

又現に如此ある事が有たそふです五六年前の事とかや或外國の貴人初めて日本に來りて日本の貴婦人に謁見せし時非常に驚きて頗る不審に考へたりと此外國人の思ふには東洋に評判よき日本の事なれば定めて美婦人も大からんと思ひしに何ぞ

料らん居並ぶ婦人ハ何れも面貌の頗る異形あればありと是は左右前后の婦人ども何れも眉毛はあき故顏はのつぺらばうに見へて脣は青く光り（紅の濃きためなるべし）口中は眞黒く齒も皆黑き故彼のハワイ國に流行する癩病の類なるべしと見受けたりと後日人に語りしとぞ

あんと皆樣外部の習慣即風俗の卑陋ある所は早く打破りて一日も早く外國人の輕蔑を退け度物でハ有ませんか夫には東京及各府縣に在る所の同志諸姉妹の諸君と力を協せ（矯風會の人々は勿論）早く早く吾國の蠻風を洗ひ流して高尙の程度に進ません事を希望致ます附ては此會の人々は己れ自ら奮つて改良せねバ成ません彼の昨日は束髮に結び今日は丸髷げ去月は眉毛を生し今月は又剃落し亦後月は齒の染を落して今月は又濡がらすを染るよふでハ譬にも云ふ秋の空と女の心なりとて人に笑ハるゝべし此會の人々よ己れの心に一定の磁石を置き一定の方角を定めて進み島國の野蠻と笑わるゝ事勿れ

○女服の改良　　築地二丁目廿三番地　龍居愛子

貴誌第五十三號の「女服の改良」と題する御論は徹頭徹尾御同意にて誠に今日の有樣に叶ふと感佩仕り就ては倘御參考までに卑見のあらまし左に申上り但し利害は別に論ずるにも及ハずと存候ゆへ畧し申ハ

一　帶を細うすると、その割合ハ只今一尺のものならバむす位に致度事

二　袖を短うすると、其割合ハ只今一尺五六寸のものならバ一尺又は一尺二寸位に致度と尤も袖口も腕の露れぬまでに細うする事

三　八つ口を塞ぐ事

四　總てつい丈けにすると然る時ハ腰の邊りかさ高くならず且つ帶自ら止むべし

五　手足とも西洋の肌衣に摸したるものを着すると則ち五十三號の圖解の如きを一說とす

六　四季とも必ず足袋を用ゆる事附り時候に隨ひフランネル又は金巾類にて猿股引（兩便に不便なき仕立方）を作り着すると

右の外に更に望ましき點ハ第一に帽子を戴く事、第二靴を穿つ事、第三手袋を用ゆる事、第四羽織を被布に改むると、（これ毛衣を慣用するの意に出づ羽織ニては到底此望みなし）とす第五襟針を用ゆる事ニ全く西洋服に變ずる嬉しき場合に至るもコルセット耳環など斥くるは勿論ありとす

I have heard of reasons manifold
Why love must needs be blind;
But this the best of all I hold—
His eyes are in his mind.

BYRON.

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

●新報

○矯風演說　本日午后一時より木挽町厚生館に於て婦人矯風會員發起の演說會あり

○帝國大學英語討論會　右會の討論筆記續稿は餘白なきに付次號に讓る尙去月廿五日夜同會の第二回討論あり其際辨論ありたる方々の筆記も亦後號に記載すべし

○高等女學校　同校は主幹箕作君の盡力に依て管理の制度等甚だ宜きを得女子敎育の摸範となるもの多し既に此頃同校生徒の保證人へ宛て配送ありたる同君の意見書の如きは眞に時勢に切中したる注意と云ふべし吾人も亦其一葉を得たれば則ち左に轉載して讀者の覽に供ふ

拜啓陳バ近頃世上に男女交際の緊要なるとを論ずる者多く隨て歐米各國の風習に倣ひ夜會宴會等に漸々多數の女子を交へ男子も亦女子を待遇するに鄭重を旨とするに至りたるハ社會上女子の品位を高尙にするの一地步として悅ぶ可き事と存候然るに各種の集會其數を增すに從ひ其會主たる者其幹事たる者其賓客たる者男女交際の規約を知らざるがために行儀上不相當の擧動をなす者往々有之哉と存候　抑　西洋各國に行ハる丶男女交際の規約ハ數百年來の經驗に依りて成りたるものにて社會の風儀を擾す等の事毫もなくして優美なる交際を爲すにハ是々の事必要なりとて誰云ふとなく自然に定りたるものなれば今我邦に於て男女の交際を擴むるに當りてハ亦此規約の大躰を適用せざる可らざるの勢に可有之と存候若し女子にして此規約を心得ず濫に社會に往來し世の惡評を來たす事のあらんにハ實に不幸の最大なるものと存候本校生徒中是の如き不幸に遭遇するもの一人も無之樣に致度ハ余の常に切望する所なれバ交際の心得等ハ已に本校に於て生徒に敎授するの計畫を盡し居候然れども生徒の父母兄姉若くハ其他監督者に於て務めて深く此に注意し本校に協力せらる丶にあらざればバ其效少きハ判然たる事と存候因て何卒左の事項に御注意あらんとを偏に希望致候

若し女生徒にて男女混合の集會及び其他一切の遊事に招待せらる丶時ハ其大小に係らず生徒の監督者に於て豫じめ其會の主客たる者が能く男女交際の規約を心得居りて之を守る者なるや否を聞定められ然る上にて參會御許し被成候樣致度候且つ其節ハ御兩親の中か或ハ其他の然るべき人御同伴被成候樣致度候

本校生徒ハ大抵其年齡女子身躰の發育に最も大切なる時期へ

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

十二三歳より十五六歳まで）に當り居る者なれバ此時期に於て勉めて身躰の健康を謀らざれバ生涯の不幸を來たすべし故に本校に於ても特に此點に注意し課業時間を減じ或ハ撰修を許す等種々の手段を用ひ修學の爲に健康を害すると無之樣に盡力致候へ共生徒數々夜會等に參席し夜半過るまでも舞踏、かるた、等を試みるとありては學業を妨げ健康を害すると少なからずと存候是れ亦篤く御注意被下度候外國にても從學年齡の女子ハ夜會等に參席せざるを通例と致候儀に御座候右貴意を得度候也

明治二十年　月　日　東京高等女學校主幹

箕作佳吉

因に云く。前號新報欄内高等女學校の項中櫻井郁二郎氏とあるは櫻井錠次氏の誤。三十日フルベッキ孃とあるハ三十日未定の誤なり。且つ同校各水曜日の演説は以降其大意を筆記して本誌上に掲載すべし

○女子高等教育　英國にて近頃女子の高等教育を賛成する人漸く多くなりたる内に「チックスフホルド」バルリチル大學校の校長博士ジョウエット氏ハ曩に大に女子の高等教育ヌ反對せしにも拘らず近來全く其意見を變じたり云く從前は女子の高等教育より起るべき數多の弊害あらんと預想したるにその結果反て然らずかの倫敦のフヒッツロイ街にありて世よマリアヅレー學校との稱ある女子師範學校ハ非常の成効を奏したるにフヒンスバーリーにある男子師範學校ハ反て惡結果を出せり故に女子教育に就ての望は更に大となれり云々

○因幡國邑美郡女況　我地方にハ女子ハ大抵小學初等科（是迄の）を終れバ又た文學に志を絶ち其中裁縫等に從事するは誠に僅かにて中等科を修むる人ハ絶て無き有樣に候如此譯に候故高等科女學校なぞハ一も無御座女工場とて製糸の場所有之候處是れへハ殆んど三百名程も工女となりて出勤するもの有之候へど幾分の日給ある爲めに左樣なりしものにて其生徒の品行ハ實に言語同斷の次第に候當路の人も早く注意あれかしと日夜念じ居候兎角目覺しき有樣も無く云ハゞ寢入たる風情に候して少し學問せし婦人ハ書生輩の誹譏と衆人の擯斥より六七年前ハ女子師範學校なぞもありて學問する人有之候へど只今ハ絶て學問に志ざす人無く女子の内にて學藝の新聞雜誌など購讀するハ一も見受けず候云々（因幡國邑美郡宮多村より報）

○但馬出石郡女況　但馬出石郡東里村ハ山間の僻村にして戸數僅かに三拾餘戸なれども同村の婦女子はみな協同一致の力らに富み既でに全村擧げて束髪となり洋服に摸して簡便なる

搾袖服を用ひんと目下協議中のよし同郡出石町はおひ〱束髪の美風起り目下二三十名の束髪婦人あり近比同地より神戸へ趣かるゝ人拾圓以上の束髪かもじの購求を依頼せし程のよし同地よりの通信に見ゆ

○大阪一致女學校　にては今度別科を設けたり尙去月主上の來坂あられし際各學校にて造りたる美術品を天覽に供へたる內生徒の裁製せる洋服を出したるは此校のみにてありしとぞ

○新潟英和女學校　新潟英學校長阿部欽二郎新潟基督教會牧師成瀬仁藏等諸氏の盡力にて今度題名の如き女學校を設立さるゝ見込にて目下同志者募集中の所篠崎知事近藤永澤兩書記官も發起者の中へ加盟ありたるよし尙同校設立の上はスカッダル氏が教員たらるゝ見込ありときく

○大坂婦人奬業會　先頃大坂東區南久寶寺町境筋の角へ設立したる婦人奬業會は日增に盛大に至り今日にては會員既に百五十名の上に達したるを以て同會の婦人方は去月二十六日親睦の會を開らかれたるよしに聞く右奬業會は同府下商業の中央に位するを以て商人の妻女が尤も會中に多數なりと

○弘道叢錄　大坂府大手通二丁目の弘道會にては是迄國語、歌文に關する弘道叢錄と云へるを發兌し居たりしが今回更に山田淳子氏を入れて編輯員となし毎月一回發兌することゝなし其記事は本居宣長、同大平、妙立寺義門、契仲、藤井高尙等古哲の說にして是れまで世間にありふれざるものゝよし

○未婚者と既婚者との比例　此程佛國政府は巴里府の獨身者へ課稅せしより同政府にて三十八万の既婚男に對し四十九万の未婚男あることを發見したり然し未婚男と稱する內には未た婚せざれども早晩婚姻す可き男をも込入ると故今此の者を取除くとするも尙ほ未婚者の方比例多しとのことなり

○丁亥會の發會　高木海軍々醫總監の發企にて今度丁亥會と云ふを組織し毎土曜日に舞踏并ヌ談話會を催ふし會員は成るへく夫人并に十五歲以上の姉妹令孃を携へて出席し婦人交際の途を開く目的あるが贊成者頗る多きを以て愈〱來る廿六日其發會を開く筈ありと

○館林の婦人會　群馬縣邑樂郡館林にては同地高等學校の女敎師福田せい郡醫夫人遠藤れき其外小室そめ同ぬいの四女史が發起者となり萬事の事務を幹理して館林婦人會と云ふを設け其第一回を高等學校內に開きしに生憎雨天にて道路の泥濘なるにも拘はらず數多の來會者ありて種々の懇談を爲し是よりは毎月開會すべきことを議決して退散したるよし

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

廣告

●通信女學規則

當今女子教育の說甚だ隆盛となりて各地の女學校は日に日に其數を加へ茲に就て學文する女子も亦た月々に多くなれり此模樣にてハ今四五年の內にハ女學の進步非常にてをさ〳〵男子に劣らざる有爲の女流を多く出さんは勿論婦人一汎の有樣必ず一變して今の如き交際にては事足らざるに至るべし故に今日に於て何ほど學文せざる貴孃方は一日も早く學校に入りてと通りの修學を爲し決して時勢に後れざる樣に勉めらるべし之れ甚だ大切の事なり然るに既に一家の妻となりて家事向万端を取扱ハるゝ方々は固より學校へ通ハるべき餘暇もなく又ゆる〳〵と讀書さるべき便利も少かるべければ此樣の人々が別に學文さるゝ方法なかるべからず抑も一家を修るには家內衞生、家內經濟の事を初として母親たるの覺悟、育兒の心得などは是非とも學び置かでハ相成らず特に世の一々開化して交際の有樣も變化する今日に當りてハ文學理學の一斑より歷史地理の大畧及び西洋女禮式の一と通りを承知せざれバ大なる辱を受るとあらん故に此度かゝる妻君母親たちの都合を計りて通信女學と申す仕組を設け家內に居ながら少々づゝの餘暇を窺みて學文さるゝやうの法方を備へ凡そ一年にて女學の荒增を覺へ二年にて其大畧を學び三年にて耻かしからぬ程の學力を得さするやう教授すべし

一　月々中本六十頁以上の講義錄一冊を出版する事

二　右講義錄には女子生理、家內衞生、家內經濟、万國史畧、文學一斑、理學一斑、西洋女禮等の諸科を講述し且つ問答叢話の一欄を設きて右講述の上に付き質疑を寄せたる人々に應答し又婦女學文の心得其外諸般の有益なる事件をも書載すべし。尤も右諸科講述の終るを待ち漸次に尚ほ更に高尚なる學課を教授すべき事

三　右講義錄は平假名交りの平易なる文章にて記るし尚ほ假名を振るべきに付何人にも容易く讀み得らるべし且つ了解しがたき事件ある時郵券二錢を封入して質問を寄するときは早速に應答し尚ほ其問答の人に示して益ある分は講義錄中の問答叢話の欄內に記載する事

四　右講義錄一册の定價を二十錢とし全國何の地にも郵送稅を要せず配達すべし而して半年分の前金は壹圓一年分の前金は二圓とすれども其以下の小賣は悉く定價を要し尚ほ一冊にても前金を領收せざる內は配達せざる事

五　右講義錄第一卷四月五日に出版すべし有志の人々は速に御申込ありて隨意の前金拂込ありたき事

東京日吉町八番地

女學雜誌社

The Instructinghouse of the dyeing-methodes of every kind invented by Mr. T. Nogami, at No 17 Gochome Naka-no-shima Osaka, Japan.

大阪授産館各色改良染液正法傳授廣告

本館ハ積年意を色染改良に留め洋和折衷化學拘合的の元理と多年の經驗とに因り迅速にして簡便且つ至極廉價にして日光雨露洗濯にて決して變褪色せざる一種卓越なる動植物質染色法を發明したり此方法にて起業せんとする有志者は速に來つて計畫する所あれ○本館諸規則書(四錢)各色見本(四錢)の郵券封送あれば直に送呈申すべし

大坂北區中之島五丁目十七番地

大阪授産館

●男女勸學新誌

第二號三月五日發兌　一冊十錢　十冊前金九十錢　郵稅一冊一錢

目次●論說○處世の成効、第一高等中學校教師コックス氏○學問の三時期。濱野定四郎氏○職業上に於ける婦人の位地。博士イミリーバックウエル氏○日本の國衞は改良せざるべからず。深谷輝吉氏○內地雜居の準備。杞憂居士●雜報○女子職業學校○ドクトルイビー氏計畫○細長靴の害○万事會の講演○佛學會の講義●雜說○租稅の說○慶應義塾試文○西洋の文明は悉く之を學ばんか或は彼の短を棄て長を取るの主義に據らんか。甲點川上兎平氏。乙點飯原佐太郎氏●雜記○米國旅行見聞錄。岡崎敬一氏○西洋演劇婦人の凱歌●寄書○全國私立中學の方向

發行所　東京日本橋區元大坂町　**勸學新誌社**

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

●孝道普及廣告

千葉縣上總國夷隅郡上布施村竹永志ほ女は寶暦年代の人なり[illegible]孝義外勝の際り時の領主神尾氏より恩賜等ありしは房總[illegible]南總附官刈孝子傳の三書に詳かなり生等如斯孝子の湮滅せんよを恐れて爰に其與を勸して萬世に傳へんと欲す江湖の君子義捐を吝む勿れ

千葉縣上總國夷隅郡上布施村貳百廿八番地平民
發起 本與六郎

明治廿年二月
全村百七十二番地平民
井上佐義夫

○右取次場所 東京日吉町八番地 女學雜誌社

●當校本科生の外更に別科を設け校舎を擴め教員を增聘し年齡十五歳以上三十五歳以下の婦人に左の科目を教授す志願の者は申込あれ○西洋裁縫、編物、西洋禮式、西洋料理（以上米國人數名にて實物を以て教授す）本邦語口授、脩身、物理、生理、家政、其他作文、習字を授く○授業時間は午後一時より四時迄

●年齡十二歳以上の女子にして小學初等科卒業か又は該科相當の學力を有する者寄宿通學共に二十名を限り定期に付入學を諾す志願の者は當三月三十日迄に申込あれ○學科は本邦普通學（日本婦人）英語、西洋裁縫、編物、西洋料理、西洋禮式、風琴、（以上米國婦人數名にて初步より懇切に教ゆ）○郵券二錢を送らば規則書を呈す

大阪府西區土佐堀通り三丁目六番地

大阪一致女學校

毎月三回發行●一冊代價郵税共現金[illegible]●十冊同前金●[illegible]

中外兵談

●三月一日發行第五號目錄●兵談發行の旨趣●歐洲の職機●各種水雷の說明●新工夫電氣艇の說●甲鐵艦と非甲鐵艦の利害論●蒸滊罐の說●旅順港の實狀ハンシユ砲の說明●清國巡洋水雷艇の記幷細密なる銅版圖●前哨に於て注意すべき風紀●ラザレン港の說●好少尉兵卒●軍紀學校を增設すべき議●水雷艇より魚商船學を設て甲鐵艦を狙擊する大寫眞木形水雷●此外雜報發談詩歌格言質問答辨等數十件

本誌は海陸の軍人、內外の兵事に注目する志士、我國の安危を憂慮する有爲者の讀友たらんとを期する兵事專門の雜誌なり

東京北品川山ノ下 中外兵談社本局
同芝區櫻川町二番地 中外兵談社支局

婦人矯風會演說會

傍聽無料
不論男女

當五日午後正一時木挽町厚生館に矯風演說を催し田村直臣、松山高吉、井深梶之助、の三氏に講談を請ふ有志の方來聽あれ

切符渡所 女學雜誌社、警醒社、丸善、嚴々堂、

東京婦人矯風會 書記

發兌

三月。	五日	十二日	十九日	廿六日
四月。	二日	九日	十六日	廿三日	三十日
五月。	七日	十四日	廿一日	廿八日
六月。	四日	十一日	十八日	廿五日

定價

一冊。五錢 郵税。一錢 （但府內無郵税）
十冊。四十八錢郵税。十錢 （同前）
半年分 一圓十七錢 府外は 一圓四十三錢
一年分 二圓卅四錢 府外は 二圓八十六錢

廣告

一行 一回 （廿七字詰） 前金拾錢
同 三回以上 一割引
同 六回以上 二割引
十行以上一割引。二十行以上二割引。四十行以上三割引。但し不道德なる事物の廣告は謝絶す
物の廣告は社議の上無代價にて引受く女學關係の書籍は一部の寄送を乞ひ相當の廣告をなし且つ本誌に批評すべし

特別廣告は婦女に關する協會會合等の記錄を揭ぐるものにて一切無料とす但し紙面半頁分の廣告を載するに右雜誌十部の注文を要し以上半頁分每に十部增の割合と定む

女學雜誌賣捌所

本號は餘白なきに付右賣捌所の所名錄を除く

發行所

東京京橋區日吉町八番地
女學雜誌社
本局

持主兼編輯 巖本善治
印刷 森田豐

WOMEN'S MAGAZINE.
"Jogaku Zasshi."

Price 5 *sen*. By post *yen* 1.43 six months, *yen* 2.86 per annum, in advance.

Edited and published by Y. H. Iwamoto, at The Jogaku-Zasshi Office, No. 8 Hiyoshichō, Shinbashi, Tôkyô.

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

十冊同前金
壹圓●前金
落手の上に
非ざれば渡
送せざるに
付御注文の
節は必す代
金御送付候
下度候事

外

●蒸滊罐の設●旅順港の實況ハンジョ
砲銅の説明●清國巡洋水雷艇の記并細密な
る版圖●前哨に於て注意すべき風紀及
軍紀●ラザレン港の説●好少尉好兵卒●
商船學校を増設すべき議●水雷艇より魚
形水雷を放て甲鐵艦を狙撃する大寫眞木
版圖數十件●此外雜報叢談詩歌格言質問答辨等
本誌は海陸の軍人、内外の兵事に注目す
る志士、我國の安危を憂慮する有爲者の

女學雜誌賣捌所

本號は餘白なきに付右賣捌所の所名錄を除く

東京京橋區日吉町八番地
發行所 女學雜誌社
持主兼編輯 巖本善治
印刷 森田豐

批評すべー

●義捐募集廣告

上總國夷隅郡上布施村竹永志ほ女は寶曆年代の人なり[illegible]外勝の際り時の領主神尾氏より恩賜等ありしは房總[illegible]府總獄官刻孝子傳の二書に詳かなり生等如斯孝子の湮滅[illegible]んとを恐れて爰に其碑を勸して萬世に傳へんと欲す江湖の君子義捐を吝む勿れ

千葉縣上總國夷隅郡上布施村貳百廿八番地平民　栃本與六郎

明治廿年二月　仝村百七十二番地平民　井上佐義夫

○右取次場所　東京日吉町八番地　女學雜誌社

大阪一致女學校

●當校本科生の外更に別科を設け校舍を擴め教員を增聘し年齡十五歲以上三十五歲以下の婦人に左の科目を教授す志願の者は申込あれ○西洋裁縫、編物、西洋禮式、西洋料理（以上米國人數名にて實物を以て教授す）本邦諸口授、脩身、物理、生理、家政、其他作文、習字を授く○授業時間は午後一時より四時迄

●年齡十二歲以上の女子にして小學初等科卒業か又は該科相當の學力を有する者寄宿通學共に二十名を限り定期に付入學を諾す志願の者は當三月三十日迄に申込あれ○學科は本邦普通學（本邦人）英語、西洋裁縫、編物、西洋料理、西洋禮式、風琴、（以上米國婦人數名に二湖波より懇切に教ゆ）○郵券二錢を送らば規則書を呈す

大阪府西區土佐堀通り三丁目六番地

●毎月二回發行●郵税共一冊代價金三錢●同前金十冊金二十錢●前金切れの際は前以て御通知致す可く若し御通知なきときは郵送を止む（一行六錢）　[illegible]御注文には必ず代金御添付有之度候事

中外兵談

●三月一日發行第五號目錄●兵談發行の旨趣●歐洲の戰機●各種水雷の說明●新工夫電氣鐵艦の說●甲鐵艦と非甲鐵艦の利害論●蒸汽旅順港の實狀●ハンジュ砲の說明●清國巡洋水雷艇の記并細密なる銅版圖●前哨に於て注意すべき風紀及軍紀●ラザレン港の說●好少尉好兵卒●商船學校を增設すべき議●水雷艇より魚形水雷を抜て甲鐵艦を狙擊する大寫眞木版圖●此外雜報叢談詩歌格言質問答辨等數十件

本誌は海陸の軍人、內外の兵事に注目する志士、我國の安危を憂慮する有爲者の[illegible]談友たらんとを期する兵事專門の雜誌なり

東京北品川山ノ下　中外兵談社本局

同芝區櫻川町二番地　中外兵談社支局

婦人矯風會演說會

傍聽無料　不論男女

當五日午後正一時木挽町厚生館に矯風演說を催し田村直臣、松山高吉、井深梶之助、の三氏に講談を請ふ有志の方來聽あれ

切符渡所　女學雜誌社、警醒社、丸善、嚴々堂、

東京婦人矯風會　書記

發兌					
三月	五日	十二日	十九日	廿六日	
四月	二日	九日	十六日	廿三日	三十日
五月	七日	十四日	廿一日	廿八日	
六月	四日	十一日	十八日	廿五日	

定價		
一冊	五錢	郵税一錢（但府內無郵税）
十冊	四十八錢	郵税十錢（同前）
半年分	一圓十七錢	府外は一圓四十三錢
一年分	二圓卅四錢	府外は二圓八十六錢

廣告

特別廣告は婦女に關する協會會合等の記事を揭ぐるものにて一切無料とす但し紙面半頁分以上の廣告を揭載する者は右雜誌十部以上半頁分毎に十部增の注文を要すると定む

一行　一回　前金拾錢（廿七字詰）
同　三回以上　一割引
同　六回以上　二割引
十行以上一割引。二十行以上二割引。四十行以上三割引
但し不道德なる事物の廣告は謝絶す女學に關係ある書籍の寄送を乞ひ相當の廣告をなし且つ本誌に批評すべし

女學雜誌賣捌所

本號は餘白なきに付右賣捌所の所名錄を除く

發行所　本局　東京京橋區日吉町八番地　女學雜誌社

持主兼編輯　巖本善治

印刷　森田豐

WOMEN'S MAGAZINE.

"JOGAKU ZASSHI."

Price 5 *sen*. By post *yen* 1.43 six months, *yen* 2.86 per annum, in advance.

Edited and published by Y. H. Iwamoto, at The Jogaku-Zasshi Office, No. 8B HIYOSHICHŌ, SHINBASHI, Tôkyô.

驛遞局認可

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY